

平成29年3月29日
株式会社シーエス・ワンテン
株式会社バイアコム・ネットワークス・ジャパン

番組審議会議事録

1. 日時 平成29年3月29日（水） 11時00分～
2. 場所 東京都港区区虎ノ門 4丁目
バイアコム・ネットワークス・ジャパン(株) A会議室
3. 出席者 審議委員総数 8名
出席審議委員数 7名※内1名は書面による意見

（出席委員名）

- 委員長 片岡 朋行（ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士）
委員 清水 直樹（株式会社クリエイティブマンプロダクション 代表取締役）
※書面による意見
委員 竹村 謙二郎（株式会社 oricon ME 雑誌事業本部 コンフィデンス編集部）
委員 野村 達矢（一般社団法人 日本音楽制作者連盟 理事）
委員 芳賀 康浩（青山学院大学 経営学部 マーケティング科 教授）
委員 松尾 健司（株式会社 J-WAVE 営業局営業促進部 営業局次長 兼 営業促進部長）
委員 丸山 信人（株式会社インプレスホールディングス 執行役員 CP0）

（衛星基幹放送事業者：シーエス・ワンテン）

- 福田 泉（代表取締役社長）
谷 俊之（編成局長）

（番組供給事業者：バイアコム・ネットワークス・ジャパン）

- 井股 進（代表取締役社長）
本間 雅彦（クリエイティブ&コンテンツ部 部長）
木下 英夫（コンテンツ・ディストリビューション・マネジメント部 部長）
岡田 純明（クリエイティブ&コンテンツ部 シニアマネージャー）
萬 隆紀（コンテンツ・ディストリビューション・マネジメント部 シニアマネージャー）

議 題

- （1） 課題番組について

「ONE OK ROCK Special: Ambitions」

議事内容

(1) 課題番組について

エモ、ロックを軸にしたサウンドとアグレッシブなライブパフォーマンスが若い世代に支持されているバンド、ONE OK ROCK。MTVは世界レベルの活躍を展開している彼らに注目し、インタビューを敢行。バンドのこれまでの軌跡やターニングポイント、今後目指す道、ニューアルバムについて、そしてファンへの思いなどをメンバーが語った。

(委員からの意見・質問と MTVの回答)

-当番組についての意見

- *編集基準などについては問題無い。
- *メンバーの素顔を垣間見ることができて面白かった。貴重なインタビューだと感じた。
- *バンドのファンの方々は楽しめる内容だと思うが、名前を聞いたことはある程度の情報レベルの視聴者にとっては、理解しづらい内容であるように感じた。
- *ターゲットがどっちつかずな印象を受けた。ファン向けだとしたら更に掘り下げた内容があっても良かったのではないかな。
- *話している内容に合わせてミュージックビデオや当時の映像などを織り込むとわかりやすいのではないかな。
- *今までの作品について振り返って話しているところでは、言及されている楽曲を効果的にBGMとして使うと良いのではないかな。
- *海外志向の強いアーティストという説明だったので、どのような海外活動をしているかの具体的な紹介があっても良かった。

- *編成の意図やターゲットはどのようなものか。

(回答) バンドへの注目が高まる新譜リリース週の週末に編成。同番組とライブ映像のセレクション番組を合わせてオンエアすることで、多角的にバンドを紹介するような編成を目指した。

- *英語のナレーションで始まり、インタビュー自体は日本語というギャップに違和感を感じた。
- *番組の締め方が中途半端に感じ、次の番組との区切りがわかりづらかった。エンディングトークやエピローグのようなものがあっても良かったのではないかな。
- *30分番組である理由はあるのか？

(回答) 海外のネットワークチャンネルでのオンエアも視野に入れており、ナレーションなどはローカライズを意識した構成となっている。諸々の要因はあるが、特に海外で

は長尺の番組は敬遠される傾向もある為、30分番組とした。また、30分では情報を詰め込むことに限界があり、一方1時間だと情報過多になりがちである。今後は番組のターゲットや目的に合わせて番組尺なども検討していければと思う。

*メンバーの名前や担当パートなども含め、わかっている前提で話が進むので、初心者向けではない番組だと感じた。もう少しテロップなどで補足しても良かったのでは。

*途中で紹介されるアルバムジャケットやタイトルのテロップも小さく、わかりづらいように感じた。

*MTVの番組はテロップなど文字要素をあまり入れず、比較的情報量が少ないという印象があるが、ブランドのレギュレーションのようなものがあるのか？

(回答) クリエイティブの方針として、スタイリッシュでミニマルなスタイルが”MTVらしい”という考え方は確かにある。海外制作のMTVの番組は特にそのようなスタイルが多いのだが、邦楽アーティストを扱う番組制作において、そのスタイル維持と視聴者の満足度やニーズに応えることとのバランスは今後の課題である。

*貴重な4人の会話になっているので60分は必要な番組だと思う。ファンに向けての内容になっているので余計にそう感じました。30分であるならもっとビデオや説明も盛り込んでの方がコアファン以外も楽しめるし、もっと知りたいと思うのでは。

審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた平成29年3月29日以降、編成担当及び番組製作者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

平成29年3月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上